

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和04年06月24日(金)

事務事業		後期高齢者医療事務		担当課	保険年金課	担当係	高齢者医療係	管理番号	3123	
総合計画	大項目	6	みんなで創る協働のまち	事業区分	<input type="checkbox"/> 自治事務 <input checked="" type="checkbox"/> 法定受託事務					
	中項目	2	将来に向けた持続可能なまちづくり	根拠法令 個別計画等	・高齢者の医療の確保に関する法律					
	小項目	3	行財政運営の推進							
	主要プロジェクト	0	(未使用)							
事業概要		75歳以上の後期高齢者と、前期高齢者（65～74歳）で障害のある者を対象とする医療保険制度を運営するために、保険料の徴収、各種申請等の受付を行う。また、被保険者の健康増進を図り、医療費の軽減に寄与するため、保健事業を行う。								
目的 ※何のために		高齢者医療を安定的に支えるとともに、高齢者に対する医療・介護サービスの質を維持、向上するため								
対象 ※誰・何を対象に		75歳以上の後期高齢者と、前期高齢者（65～74歳）で障害のある者								
手段 ※どのように		・保険料の徴収を行う。 ・各種申請の手続きを行う。 ・保健事業を実施する。								
成果 ※何を求めるか		対象者から誤りなく、保険料を徴収し、各種の申請等の手続きを円滑に行う。また、より多くの被保険者に健診の受診や人間ドックの受検をしてもらう。								
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他( )								
事務事業を構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額（円）		
		特別会計	1	総務費	1	総務管理費	1	一般管理費	後期高齢者健診事業	33,843,935
		特別会計	1	総務費	1	総務管理費	1	一般管理費	後期高齢者人間ドック助成事業	4,270,000
		特別会計	1	総務費	1	総務管理費	1	一般管理費	一般事務経費	8,057,483
		特別会計	1	総務費	2	徴収費	1	徴収費	徴収経費	12,476,112
		特別会計	2	後期高齢者医療広域連合納付金	1	後期高齢者医療広域連合納付金	1	後期高齢者医療広域連合納付金	後期高齢者医療広域連合納付金	2,823,415,686
本事業の 主な業務		・後期高齢者医療制度に係る各種申請等の手続き					・			
		・後期高齢者健診業務の委託					・			
		・後期高齢者医療保険料の徴収					・			
		・後期高齢者医療人間ドック・脳ドックの受検費用の助成					・			
		・後期高齢者医療被保険者の資格管理					・			
		・					・			

2. 事業費（投入コスト）

単位：円

区分		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年度別計画							
事業費	予算（現額）	2,485,362,000	2,683,854,000	2,732,021,000	2,875,600,000	2,971,672,000	3,265,188,000
	決算額	2,475,392,615	2,607,880,407	2,666,387,369	2,797,110,172	2,891,026,586	0
	財源内訳	国支出金	0	820,000	0	123,000	185,753
		県支出金	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		他特定財源	1,366,602,591	1,423,492,590	1,503,418,629	1,553,969,739	1,639,596,062
	一般財源	1,108,790,024	1,183,567,817	1,162,968,740	1,243,017,433	1,251,244,771	1,288,660,000
人件費	従事職員数（人）	4.84	4.93	4.10	4.93	4.15	4.15
	人件費相当試算※	37,650,360	38,365,260	33,230,500	40,110,480	32,211,948	33,745,094
総事業費試算		2,513,042,975	2,646,245,667	2,699,617,869	2,837,220,652	2,923,238,534	3,298,933,094

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		目標値	単位	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
実績値の算出式										
活動指標 1	保険料の徴収件数	目標値	千件							
		実績値		109.85	113.82	118.77	120.46	122.74	0	
	目標値の算定根拠/実績値の出所			被保険者数の目標値把握が困難なため目標値コントロール不可/年度集計資料より						
	実績値の算出式				109,854件	113,782件	118,771件	120,458件	122,737件	
活動指標 2	各種申請等の受付件数	目標値	件							
		実績値		5362	5844	5414	4907	5812	0	
	目標値の算定根拠/実績値の出所			被保険者数の目標値把握が困難なため目標値コントロール不可 / 窓口受付状況一覧より						
	実績値の算出式									
成果指標 1	誤りによる苦情件数	目標値	件	0	0	0	0	0	0	0
		実績値		0	0	0	0	0	0	
	目標値の算定根拠/実績値の出所			0件を目標とする / 苦情として処理した件数						
	実績値の算出式									
成果指標 2	健康診査受診数	目標値	人	2394	2739	2874	3443	2411	3237	
		実績値		2490	2613	3130	2192	2943	0	
	目標値の算定根拠/実績値の出所			前年度の受診者実績＋10％（H24年度より採用）						
	実績値の算出式									
活動指標 3	後期高齢者一人あたりの経費	目標値	千円							
		実績値		138.28	139.11	139.99	146.19	145.04	0	
	目標値の算定根拠/実績値の出所			被保険者数の目標値把握が困難なため目標値コントロール不可 / 総事業費÷被保険者数						
	実績値の算出式				17,901人	18,747人	19,284人	19,408人	20,155人	
成果指標 3	後期高齢者人間ドック・脳ドック受検者数	目標値	人	86	105	164	144	136	660	
		実績値		95	149	131	124	244	0	
	目標値の算定根拠/実績値の出所			前年度の受診者実績＋10％（健診と同じ） ※R4は助成額の拡充に伴い増を見込む。						
	実績値の算出式									

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。  
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。  
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に適う成果がでているかを評価します。  
（評価基準）（A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない）

（1）事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	B	後期高齢者医療の被保険者数は、制度発足の平成20年から増加の一途をたどっている。また、令和4年度からいわゆる団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、被保険者数の急増が見込まれており、保険料の徴収件数や各種申請の受付件数などの定常事務量は年々増加している。また、被保険者がいつまでも健やかに自立した生活を送ることができるよう、効率的・効果的に高齢者保健事業を実施していく必要がある。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	被保険者数の増加に伴い事務量が増加している中、誤りなく処理を行っている。令和3年度から全被保険者への受診券発送を行った。システムの構築から始まり、受診券作成や発送業務を委託業者や会計年度任用職員と調整を図りながら滞りなく行うことが出来た。その結果、新型コロナウイルス感染症の影響により受診者の人数制限を行っている中であっても、目標値の2,411人を大きく上回ることが出来た。
			評価者 高齢者医療係長 小野寺 聡

（2）事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。  
（評価基準）（A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない）

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	A	今後被保険者数の急増が見込まれる中、事務量も年々増加していることから、ICT技術の活用による業務の効率化を図るため、保険料過誤納金還付業務について、A I - O C Rによる帳票のデータ化及び口座振込処理のR P Aシナリオを作成した。令和4年度から実践投入し、間違いのない正確な事務処理と事務の効率化を目指す。
			評価者 高齢者医療係長 小野寺 聡

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和2年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	令和4年度から助成額の上限を17,500円から30,000円に拡充し、より多くの被保険者が受検しやすい環境を整える。
達成状況及び その効果	助成額を30,000円に拡充するため、県内他市町村の助成額や助成人数等の調査を行い必要な予算措置を講じた。これにより、より受検しやすい環境が整うことにより、受検者数や受検率が上昇することが見込まれる。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	後期高齢者医療事務	担当課	保険年金課	担当係	高齢者医療係	管理番号	3123
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		<div>評価の内容説明</div> <div>助成額等を見直した。より受検しやすい環境が整うことで、被保険者の健康の保持・増進、生活習慣病等の重症化予防が図れるものと期待される。</div>					
<div>上記を実施するための具体的な取組内容は？</div>		評価者	保険年金課長 田村 恵				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和4年度に実施する 改善・改革案 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	
令和5年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	

8. 評価指標グラフ

